



佐田まちづくりだより

第138号



スマホでカラー版を見るのが出来ます

三月一三日(日)第三一回米神山開き神事を開催しました。

未だ収束の兆しも見えないコロナウイルス感染症の影響を受け、三年連続の中止を余儀なくされた「米神山巨石祭」。

しかし、登山に訪れる方は結構多く、イベントの開催は困難なものの、来てくださる方々の安全を祈り、神事を毎年行っています。

今年も神事の前**※実行委員と女性部**で(二三名の参加)京石周辺と駐車場の草刈り等の美化作業を行いました。

鳥居の設置や縄を張る作業も同時進行しますので、もう少し人数が欲しかったのが正直な気持ちです。

作業も終え、準備万端の所で神事が始まりましたが、滞りなく進行していきま

なく、巫女による「浦安の舞」もありません。来年こそは、コロナが収束し、大々的に賑やかな「巨石祭」を開催したいものです。

就任以来三年間、ずっと神事に携わって下さっている佐田小学校の阿南校長先生は、まだ一度も本来の姿の「巨石祭」を見たことが無いのです。

最初の中止からもう三回もなるのかあ。このままだと地区民の方の頭からも「巨石祭」が消えてしまうのでは(不安)来年こそは必ず!!

※ 実行委員は、まち協役員と佐田地区の各種団体の長などで形成されています。

巨石祭に関する作業などは実行委員の方々から関係各位に連絡が入ります。

皆様!!連絡があった際にはご参加ご協力の程、よろしくお願いします。



草刈り、掃除、山開き神事の様子



米神山 登山道整備



山開き神事の開催を二週間後に控えた二月二十七日、参加協力の呼びかけに応えてくれた九名の精鋭による登山道の整備を実施しました。(事務局も精鋭?)

今年の重点箇所を熊側入り口からの擬木を使用した段の修復に決めました。

毎年京石側から整備しながら山頂を目指し、熊に下りるコースでもうすぐゴールという地点に散在する擬木の数々、以前整備をしてきたものが、大水で流されたのでしよう、これらを目にするものの体力は限界。

次こそはと思いつつ数年が経過し、この度事前に確認してみるとその数七〇本を超え、あまりの荒れ具合に、このままではいけないということで整備の対象に選定しました。

それと外すことのできないのが山頂の草刈りです。今回は後の作業のことを考えて(考えたつもりだった)なるべく高い位置からのスタートをと、徳瀬入口

を選びました。

距離も短いし、少しでも楽を：しかし!!

甘かった。道は頂上へ向かって一直線の上り、蛇行することなくただ上るのみ

背中には来年の階段づくり資材の鉄筋とパイプをのせた背負子。

三〇メートルも進まないうちに「後悔」、引き返したい。

日頃の運動不足を痛感し何とか頂上へ。

その頃には草刈り部隊は元気に作業、年の差を感じる。快晴の下、作業後頂上からの景色は最高でした。



そして熊へ移動、参加してくれた精鋭は実に手際よく、力強く作業をこなしていき、安全面、景観面にも素晴らしい仕上がりとりました。

佐田地区を担う人がこんなにもいることの頼もしいこと、作業に従事したからこそ味わえる充実感、そして感謝の気持ちでいっぱいの日でした。

皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

集大成



地域学で研究した「青山城」、昨年大分市の能楽堂でも発表するなど大活躍の佐田小4、5年生。

その集大成として青山頂上までの登山道の案内看板を作成し、登山道の整備も兼ね、3月23日に設置予定です。

詳しくは次号でお伝えします。

